



富山県立大学概要 2018

– Outline of TPU –

公立大学法人富山県立大学

Contents

- 法人概要
- 沿革、歴代学長
- 法人組織図
- 役職員
- 附属施設等の概要
- 教員数、学生数
- 入学試験結果
- 卒業・修了後の進路、就職状況
- 産官学連携・地域貢献活動
 - 国際交流
 - 財務状況
 - 学内マップ
- 最近の特記事項

法人概要

1 目的

公立大学法人富山県立大学は、地方独立行政法人法に基づき、大学を設置し、及び管理することにより、富山県における知の拠点として、広く知識と技術を授け、未来を志向した高度な専門の学術を深く教授研究するとともに、特色ある教育を行い、人間性豊かな創造力と実践力を兼ね備えた、地域及び社会に有為な人材を育成し、併せて、広く開かれた大学として、優れた教育研究の成果を地域や社会に還元し、もって富山県はもとより我が国と世界の学術文化の向上と地域及び産業の振興、社会の発展に寄与する。

2 業務

- (1) 県立大学を設置し、これを運営すること。
- (2) 学生に対し、修学、進路選択及び心身の健康等に関する相談その他の援助を行うこと。
- (3) 法人以外の者から委託を受け、又はこれと共同して行う教育研究の実施その他の法人以外の者との連携による教育研究活動を行うこと。
- (4) 公開講座の開設その他の学生以外の者に対する学習の機会を提供すること。
- (5) 県立大学における教育研究の成果を普及し、及びその活用を促進すること。
- (6) 前各号に掲げる業務に附帯する業務を行うこと。

3 事務所・校地の所在地

富山県射水市黒河 5180 番地

4 資本金の状況

6,614,440,000 円 (全額 富山県出資)

5 校地・建物面積

- ◆校地面積 約 19.8ha (学校敷地 11.2ha、運動場その他 8.6ha)
- ◆建物面積 約 56 千㎡ (本部棟、講義棟、研究棟、合同棟、生物工学科棟、図書館、体育館、講堂等)

6 基本目標 (公立大学法人富山県立大学中期目標<平成 27~32 年度>)

- (1) 学生を大きく伸ばす教育力の高い大学
学生の課題解決力を身につける実践重視の教育を推進し、地域社会はもとより国際社会で活躍できる有為な人材を育成する。
- (2) 未来を志向した高度な研究を推進する大学
基盤的・先端的な研究を推進し、県内産業の発展はもとより国内と世界の学術の向上に貢献する。
- (3) 広く開かれ地域社会に貢献する大学
富山県における知の拠点として、優れた教育研究成果を広く地域社会に還元し、地域及び産業の振興に貢献する。

○建学の理念

- (1) 富山県の発展をめざした県民の大学
- (2) 未来を志向した大学
- (3) 特色ある教育をめざした大学

○大学の設置目的

- 1 次代を担う青年の多様な個性の開発を促し、視野の広い、人間性豊かな、創造力と実践力を兼ね備えた、地域及び社会に有為な人材を育成。
- 2 学術の中心として広く知識、技術を授け、未来を志向し、高度な専門の学芸を深く教授研究。
- 3 学術と産業との有機的連携を進めるとともに、富山県民の本学に対する地域振興の原動力としての期待や生涯学習に対する多様な要請に応え、科学技術の新たな拠点として、学術文化の向上と産業の振興発展に寄与。

7 教育の特色

(1) 少人数によるゆきとどいた教育

- ① 教員1人当たり学生数10人
- ② 全ての学年における少人数ゼミの導入

(2) 人間性豊かな技術者の育成につながるカリキュラム編成

- ① 低学年における専門科目の拡大、くさび型カリキュラム
- ② 3年次からの研究室配属（生物工学科、医薬品工学科）
- ③ 民間企業からの提案に基づく卒業論文テーマへの取り組み

(3) 基礎知識・基礎技術の確実な修得

基礎科目、実験・演習の重視

(4) 学部・大学院（博士前期課程）を通じた連携教育体制の確立

6年一貫教育を意識した体系的カリキュラム

(5) 学生の自立を促すキャリア教育の実施

- ① 学生のキャリア形成につながる実践的で体系的な教育プログラムを、入学から卒業まで展開。
- ② キャリアセンターによるきめ細やかな指導・助言

(6) 環境リテラシーを育む環境教育プログラムの実施

持続可能な社会の実現に向けて環境への幅広い視点と倫理観（環境リテラシー）を備えた工学技術者を育成するため、導入教育から専門教育に至るまで全学横断型の体系的な環境教育プログラムを展開。

(7) ユビキタスキャンパスの構築

- ① 学生には、パソコン所持を義務づけ、コンピュータ活用能力の向上も含めたキャリアアップを図る（H18.4～）。
- ② 最新のIT技術、ネットワーク技術を用いた学内ネットワークの整備

【文部科学省の教育改革支援プログラムの採択状況】

(1) 現代的教育ニーズ取組支援プログラム（現代GP）

- ① 地域連結型「知の結集」工学教育プログラム [H16～18]
地域活性化への貢献をテーマに、産学官が連携して工学教育を実施。
 - ・卒業研究テーマの募集
 - ・修士論文テーマの提案
 - ・MOT（技術経営）や知的財産に関する新講義の開設
 - ・「論文準修士制度」の創設（H18.4～）
- ② 学生の自立を促す統合型キャリア増進プラン [H18～20]
学生の高い職業意識や幅広い人間形成を支援する。
 - ・計画的なキャリア形成科目群の構築
 - ・総合的なキャリア活動実績評価制度の導入（キャリアポイント、キャリアパスポート）
- ③ 富山型環境リテラシー教育モデルの構築 [H19～21]
持続可能な社会の実現に向け、環境リテラシーを備えた環境調和型技術の創造者を育成するとともに、あらゆる高等教育機関で実施されるべき環境教育モデルを提示する。
 - ・恵まれた自然環境と公害等環境問題が凝縮された富山県の風土環境の活用
 - ・小規模大学の特性を生かした全学横断型教育の試行

- ・導入教育から専門的教育まで体系化・統合化した環境教育プログラムの実施
- ・学生の主体的な学習を促す教育システムの提供（キャンパスフィールド活動エコポイント等）

(2) 「大学生の就業力育成支援事業（就業力支援G P）」

企業社会で活躍できる骨太人材育成プランの構築 [H22～23]

- ・学生の自己開発力を強化するキャリアドックの開発・実施
- ・学生の社会性・実践力を涵養するキャリア教育の展開
- ・学生の就業力・生きる力を増進する支援ネットワーク体制の整備

(3) 「産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業」

中部圏の地域・産業界との連携を通じた教育改革力の強化 [H24～26]

中部圏 23 大学の中部地域大学グループと連携し、アクティブラーニングを活用し、地域・産業界との連携を通して、産業界等のニーズに対応した人材を育成する。

(4) 特色ある大学プログラム（特色G P）

フィールド実習をコアとした流域環境教育 [H17～18]

水環境に恵まれた本県の特性を生かして、フィールド実習をコアとした流域環境教育を実施。
（旧短期大学部）

(5) 大学院教育改革支援プログラム（大学院G P）

環境調和型高度ものづくり能力の育成 [H19～21]

環境に配慮した安全・安心な社会の構築を目指したより高度な専門教育と研究を展開し、「環境調和型高度ものづくり能力」を備えた人材の育成を図る。

（工学研究科機械システム工学専攻）

- ・高度な機械工学分野の専門能力を有する人材の育成
- ・資源循環型社会の実現に向け、今日的課題を解決できる人材の育成
- ・幅広い視野と豊かなコミュニケーション能力を有する人材の育成

(6) 地（知）の拠点整備事業

「工学心」で地域とつながる「地域協働型大学」の構築 [H25～29]

地域に役立つ技術者マインド「工学心」を持ち、地域課題に取り組む学生の育成や地域を志向した研究・社会貢献を行う「地域協働型大学」の構築を目指す。

- ・全学的な取組み：新たな学長直属組織（COC推進本部）の設置
- ・自治体との連携：富山県、射水市をはじめ既に本学と連携実績のある市町との連携強化による事業の推進
- ・教育：学生の主体的な社会参画や課題解決力の育成を図るため、地域との交流・対話・協働の促進を目指すカリキュラムの見直しやサポート体制の整備
- ・研究：地域課題を志向した研究の推進のため、教員の意識改革と学生の参画促進
- ・社会貢献：生涯学習や企業人材育成支援事業の充実・発展

沿革

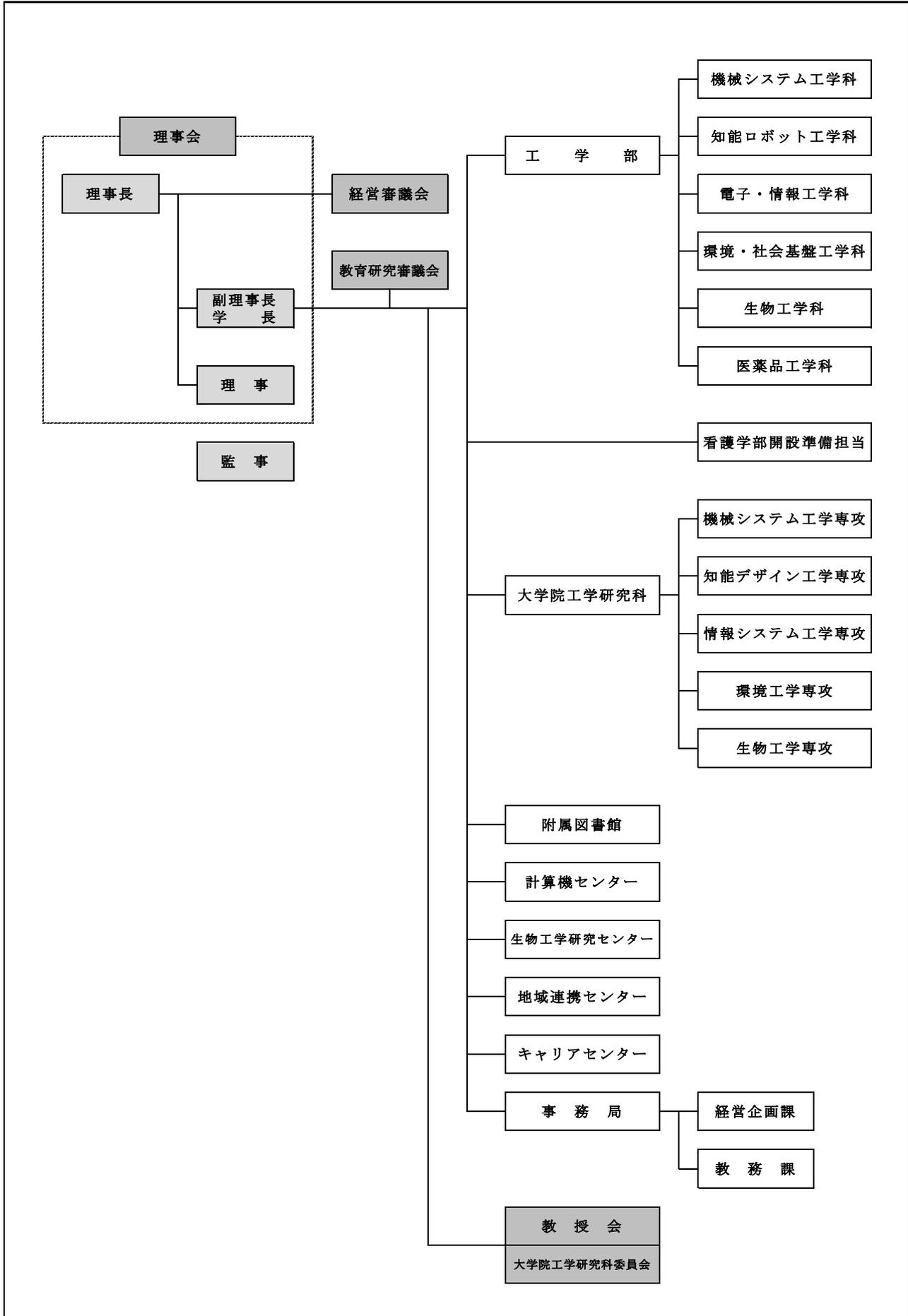
- 昭37. 4月 富山県立大谷技術短期大学 開学（農業機械科、機械科、応用数学科設置）
- 昭47. 4月 富山県立技術短期大学に名称変更
- 平 2. 4月 富山県立大学開学【日本海側初の工学系公立大学】
（機械システム工学科、電子情報工学科設置）
短期大学部を併設（農業技術学科、環境工学科設置）
- 平 4. 10月 バイオテクノロジーの研究拠点として生物工学研究センター開所
- 平 6. 4月 大学院博士前期課程（機械システム工学専攻、電子情報工学専攻）開設
- 平 8. 4月 大学院博士後期課程（機械システム工学専攻、電子情報工学専攻）開設
大学院博士前期課程（生物工学専攻）開設
- 平10. 4月 大学院博士後期課程（生物工学専攻）開設
短期大学部専攻科（生物資源専攻、地域環境工学専攻）開設
- 平15. 4月 短期大学部の農業技術学科と環境工学科を再編し、生物資源学科と環境システム工学科を設置
- 平16. 4月 地域連携センター開所
- 平17. 4月 短期大学部専攻科（環境システム工学専攻）開設
- 平18. 4月 工学部に新たに生物工学科を設置するとともに、機械システム工学科と電子情報工学科の2学科を、機械システム工学科、知能デザイン工学科及び情報システム工学科の3学科に再編
併せて、大学院博士前期・後期課程を3専攻から4専攻に再編
- 平19. 3月 短期大学部生物資源学科廃止
- 平19. 4月 キャリアセンター開所
- 平20. 3月 短期大学部専攻科（生物資源専攻）廃止
- 平21. 4月 工学部環境工学科開設
- 平22. 3月 短期大学部環境システム工学科廃止
- 平24. 3月 短期大学部環境システム専攻廃止
短期大学部閉学
- 平25. 4月 大学院博士前期課程（環境工学専攻）開設
- 平27. 4月 公立大学法人富山県立大学設置（地方独立行政法人化）
大学院博士後期課程（環境工学専攻）開設
- 平28. 4月 機械システム工学科及び知能デザイン工学科の入学定員の増
- 平29. 4月 工学部医薬品工学科開設
情報システム工学科及び環境工学科の名称を、電子・情報工学科と環境・社会基盤工学科にそれぞれ変更し、あわせて入学定員を増員
- 平30. 4月 知能デザイン工学科の名称を知能ロボット工学科に変更
- 平31. 4月 看護学部看護学科開設（予定） ※平30. 3月看護学部設置認可申請

富山県立大学 歴代学長

初代	藤井 澄二	(平成2年4月1日～平成9年3月31日)
第2代	川端 昭	(平成9年4月1日～平成13年3月31日)
第3代	中島 恭一	(平成13年4月1日～平成19年3月31日)
第4代	田中正人	(平成19年4月1日～平成23年3月31日)
第5代	前澤 邦彦	(平成23年4月1日～平成25年3月31日)
第6代	石塚 勝	(平成25年4月1日～現在)

公立大学法人富山県立大学組織図

(平成30年5月1日現在)



役職員

(平成30年5月1日現在)

理事長	寺井 幹 男
副理事長 学 長	石 塚 勝
理 事 副 学 長	森 孝 男
理 事 事務局長	山 下 康 二
理 事 (非常勤)	杉 野 太加良
理 事 (非常勤)	町 野 利 道
監 事	林 晃 司
監 事	金 田 賢 二

【経営審議会】

理事長	寺井 幹 男
副理事長	石 塚 勝
理 事	森 孝 男
理 事	山 下 康 二
理 事	杉 野 太加良
理 事	町 野 利 道
外部有識者	山 崎 康 至
外部有識者	朝 日 重 剛

【教育研究審議会】

学 長	石 塚 勝
副学長 工学部長	森 孝 男
学生部長	伊 藤 伸 哉
入試・学生募 集部長	中 島 範 行
附属図書館長	福 原 忠
地域連携セン ター所長	高 橋 剛一郎
キャリアセン ター所長	大 島 徹
計算機セン ター所長	鳥 山 朋 二
生物工学研究 センター所長	浅 野 泰 久
主任教授 (教養教育)	石 森 勇 次
主任教授 (機械システム工学科)	坂 村 芳 孝
主任教授 (知能ロボット工学科)	高 木 昇
主任教授 (電子・情報工学科)	唐 山 英 明
主任教授 (環境・社会基盤工学科)	渡 辺 幸 一
主任教授 (生物工学科)	加 藤 康 夫
主任教授 (医薬品工学科)	榊 利 之

教 授 (看護学部開設準備担当)	竹 内 登 美子
事務局長	山 下 康 二

【学部】

工学部長	森 孝 男
主任教授 (教養教育)	石 森 勇 次
主任教授 (機械システム工学科)	坂 村 芳 孝
主任教授 (知能ロボット工学科)	高 木 昇
主任教授 (電子・情報工学科)	唐 山 英 明
主任教授 (環境・社会基盤工学科)	渡 辺 幸 一
主任教授 (生物工学科)	加 藤 康 夫
主任教授 (医薬品工学科)	榊 利 之

【大学院】

工学研究科長	森 孝 男
主任教授 (機械システム工学専攻)	坂 村 芳 孝
主任教授 (知能デザイン工学専攻)	高 木 昇
主任教授 (情報システム工学専攻)	唐 山 英 明
主任教授 (環境工学専攻)	渡 辺 幸 一
主任教授 (生物工学専攻)	加 藤 康 夫

【事務局】

事務局長	山 下 康 二
事務局次長	廣 島 義 雄
経営企画課長	廣 島 義 雄
教務課長	村 山 麻 美

●附属図書館



図書館には理工系の専門書を中心に約17万冊の蔵書があり、学習コーナーは毎日多くの学生が利用している。館内にはキャレルや隠れ家風の閲覧席もあり、学生に学習の場を提供している。

●地域連携センター



大学の知的資源を積極的に地域社会に還元することを目的とし、地元産業界との産学連携や地域交流を一体的に行っている。

●キャリアセンター



富山県立大学の理念に沿って、実践的かつ体系的なキャリア形成のための教育・支援を行い、学生の高い職業意識・能力の育成と、学生の就職支援を行っている。

●計算機センター



高度な教育研究をバックアップする最先端のシステムを構築。学内LANはもちろん、国内外の大学や研究機関とのネットワークシステムにより、各種データベースの使用や情報交換なども活発に行う。

●生物工学研究センター



バイオテクノロジーに関する実用化に向けた基礎的研究及び応用研究を推進し、もってバイオテクノロジーに係る研究水準の向上を図るとともに、その成果及び技術を広く社会に還元する、という目的の下、県内企業や学内外の研究組織等との横断的な研究開発に積極的に取り組んでいる。

●パステル工房



子供がパステルを使って好きな絵を描くように、自由で柔軟な発想でものづくりに取り組んでほしい…、というのが命名の由来。実践的なものづくり教育・支援の拠点として、また、地元企業や富山県産業技術研究開発センターとの共同研究の場にも活用されている。

教員数、学生数

(平成30年5月1日現在)

●教員数

	学長	教 員				計
		教授	准教授	講師	助教	
学長	1 (0)					1 (0)
工学部						
教養教育		4 (0)	15 (0)	6 (2)		25 (2)
機械システム工学科		7 (1)	10 (0)	3 (0)	1 (1)	21 (2)
知能ロボット工学科		5 (0)	7 (0)	7 (0)	1 (0)	20 (0)
電子・情報工学科		8 (0)	8 (0)	4 (1)	3 (0)	23 (1)
環境・社会基盤工学科		6 (0)	8 (0)	5 (0)		19 (0)
生物工学科		7 (0)	4 (0)	4 (0)	5 (1)	20 (1)
医薬品工学科		6 (0)	3 (0)	2 (0)	1 (1)	12 (1)
看護学部開設準備担当		2 (2)	1 (1)		1 (1)	4 (4)
合 計	1 (0)	45 (3)	56 (1)	31 (3)	12 (4)	145 (11)

※ () 内は女性教員で内数。大学院工学研究科教員は工学部教員のうち117名が兼務。

●学生数

		学生定員		学生現員				計	
		入学定員	収容定員	1年生	2年生	3年生	4年生		
工学部	機械システム工学科	60	230	64 (2)	71 (2)	60 (4)	57 (2)	252 (10)	
	知能ロボット工学科	60	230	60 (5)	61 (9)	59 (4)	63 (6)	243 (24)	
	電子・情報工学科	80	260	83 (9)	88 (11)	55 (7)	65 (8)	291 (35)	
	環境・社会基盤工学科	55	190	57 (20)	58 (12)	38 (4)	48 (7)	201 (43)	
	生物工学科	40	160	48 (33)	43 (28)	41 (22)	49 (31)	181 (114)	
	医薬品工学科	35	70	37 (18)	35 (21)			72 (39)	
	計	330	1,140	349 (87)	356 (83)	253 (41)	282 (54)	1,240 (265)	
大学院工学研究科	博士前期課程	機械システム工学専攻	17	34	16 (0)	18 (0)			34 (0)
		知能デザイン工学専攻	17	34	16 (1)	18 (1)			34 (2)
		情報システム工学専攻	17	34	22 (0)	22 (1)			44 (1)
		環境工学専攻	12	24	9 (2)	11 (2)			20 (4)
		生物工学専攻	15	30	12 (5)	12 (3)			24 (8)
		計	78	156	75 (8)	81 (7)			156 (15)
	博士後期課程	機械システム工学専攻	4	12	2 (1)	1 (0)	2 (0)		5 (1)
		知能デザイン工学専攻	4	12	2 (1)	2 (0)	0 (0)		4 (1)
		情報システム工学専攻	4	12	2 (1)	0 (0)	0 (0)		2 (1)
		環境工学専攻	2	6	2 (0)	2 (0)	0 (0)		4 (0)
		生物工学専攻	4	12	3 (2)	4 (0)	2 (1)		9 (3)
計	18	54	11 (5)	9 (0)	4 (1)		24 (6)		
合 計		426	1,350	435 (100)	446 (90)	257 (42)	282 (54)	1,420 (286)	

※ () 内は女性で内数。

●教員一人あたり学生数

工学部 8.9 人 (1,240 / 140) 大学院 1.5 人 (180 / 117)

全体 10.1 人 (1,420 / 140)

注) 学長及び看護学部開設準備担当は、教員数に含まない。

入学試験結果（平成30年度入試）

【工学部】

		(人、倍)							
選抜区分		募集人員	志願者数	受験者数 (a)	合格者数 (b)	入学者数 (c)	競争倍率 (a/b)	(参考) 前年度 競争倍率	
推薦入試	機械システム工学科	13	27	26	13	13	2.0	1.9	
	知能ロボット工学科	13	34	34	14	14	2.4	1.5	
	電子・情報工学科	18	33	33	18	18	1.8	1.8	
	環境・社会基盤工学科	13	22	22	13	13	1.7	1.2	
	生物工学科	10	17	17	10	10	1.7	1.8	
	医薬品工学科	10	29	29	10	10	2.9	2.5	
	計	77	162	161	78	78	2.1	1.8	
一般入試	前期日程	機械システム工学科	39	260	238	55	42	4.3	2.0
		知能ロボット工学科	39	268	250	57	43	4.4	2.4
		電子・情報工学科	52	336	315	72	59	4.4	2.1
		環境・社会基盤工学科	36	231	210	52	41	4.0	1.8
		生物工学科	26	48	46	41	36	1.1	2.2
		医薬品工学科	23	59	55	35	24	1.6	4.5
		計	215	1,202	1,114	312	245	3.6	2.3
	後期日程	機械システム工学科	8	36	36	14	8	2.6	5.5
		知能ロボット工学科	8	44	44	10	3	4.4	8.9
		電子・情報工学科	10	57	57	12	6	4.8	4.8
		環境・社会基盤工学科	6	84	84	9	3	9.3	2.8
		生物工学科	4	38	38	4	2	9.5	1.2
		医薬品工学科	2	53	53	11	3	4.8	2.5
		計	38	312	312	60	25	5.2	3.6
私費外国人留学生	機械システム工学科	若干名	2	2	1	1	2.0	1.0	
	知能ロボット工学科	若干名	1	1	0	0	—	—	
	電子・情報工学科	若干名	0	0	0	0	—	2.0	
	環境・社会基盤工学科	若干名	1	0	0	0	—	—	
	生物工学科	若干名	0	0	0	0	—	—	
	医薬品工学科	若干名	2	2	2	0	1.0	1.0	
	計		6	5	3	1	1.7	1.8	
計	機械システム工学科	60	325	302	83	64	3.6	2.3	
	知能ロボット工学科	60	347	329	81	60	4.1	3.0	
	電子・情報工学科	80	426	405	102	83	4.0	2.3	
	環境・社会基盤工学科	55	338	316	74	57	4.3	1.9	
	生物工学科	40	103	101	55	48	1.8	1.9	
	医薬品工学科	35	143	139	58	37	2.4	3.6	
	計	330	1,682	1,592	453	349	3.5	2.5	

※学科名は平成30年4月のものです。

●平成30年度工学部一般入試成績（合格者）

前期日程 ※学科名は平成30年4月のものです。

学 科	総合点			
	満点	最高点	最低点	平均点
機械システム工学科	1,100	764	596	633.5
知能ロボット工学科	1,100	752	591	637.4
電子・情報工学科	1,100	791	593	643.0
環境・社会基盤工学科	1,100	804	584	635.3
生物工学科	1,150	767	545	641.9
医薬品工学科	1,150	880	670	735.1

学 科	大学入試センター試験				個別学力検査			
	満点	最高点	最低点	平均点	満点	最高点	最低点	平均点
機械システム工学科	650	439	355	396.6	450	352	176	237.0
知能ロボット工学科	650	472	330	385.6	450	364	159	251.8
電子・情報工学科	650	451	351	397.4	450	373	154	245.6
環境・社会基盤工学科	650	434	331	388.8	450	372	184	246.5
生物工学科	700	499	377	421.5	450	341	126	220.4
医薬品工学科	700	533	384	464.3	450	381	200	270.9

後期日程 ※学科名は平成30年4月のものです。

学 科	大学入試センター試験			
	満点	最高点	最低点	平均点
機械システム工学科	1,200	930	713	790.8
知能ロボット工学科	1,200	897	780	845.0
電子・情報工学科	1,200	942	772	858.2
環境・社会基盤工学科	1,200	915	838	870.3
生物工学科	1,150	905	843	865.3
医薬品工学科	1,150	988	854	886.3

●出身地域別の状況（平成30年度入学者）

都道府県	志願者数 (名)	入学者 (名)	入学者に占める割合%	都道府県	志願者数 (名)	入学者 (名)	入学者に占める割合%
富山県	402	130	37.2	山梨県	17	4	1.1
石川県	134	27	7.7	静岡県	80	19	5.4
福井県	70	6	1.7	滋賀県	16	3	0.9
愛知県	368	80	22.9	京都府	25	5	1.4
岐阜県	118	21	6.0	兵庫県	30	3	0.9
三重県	71	9	2.6	その他	190	18	5.3
新潟県	62	8	2.3				
長野県	99	16	4.6	計	1,682	349	100.0

卒業・修了後の進路、就職状況

●卒業後の進路状況（学部生）（平成29年度）

【工学部】

（平成30年3月31日現在）

区 分	卒業生		うち県内へ		うち県外へ	
	人数(人)	割合	人数(人)	割合	人数(人)	割合
進学等	77	30.8%	69	89.6%	8	10.4%
就職	173	69.2%	71	41.0%	102	59.0%
計	250	100.0%	140	56.0%	110	44.0%

●卒業・修了者の就職状況（平成29年度）

（平成30年3月31日現在）

	学 部	大学院	計
就職希望者数	173 人	64 人	237 人
就職者数	173 人	64 人	237 人
就職率	100.0 %	100.0 %	100.0 %
うち県内就職率	41.0 %	43.8 %	41.8 %

●就職者の県内定着状況（過去4か年）

（人）

年度	県内出身者			県外出身者			就職者 合計			県内就職率		
	県内 就職	県外 就職	計	県内 就職	県外 就職	計	県内 就職	県外 就職	計	県内 出身	県外 出身	全体
平成29年度	67	13	80	32	125	157	99	138	237	83.8%	20.4%	41.8%
平成28年度	63	22	85	25	100	125	88	122	210	74.1%	20.0%	41.9%
平成27年度	67	12	79	31	119	150	98	131	229	84.8%	20.7%	42.8%
平成26年度	62	23	85	22	93	115	84	116	200	72.9%	19.1%	42.0%

●学部・大学院 学科別就職状況（平成29年度）
【業種別】

※学科名は平成29年度のものです。

	建設業	製造業	電気・ガス・熱供給・水道業	情報通信業	運輸業、郵便業	卸売業、小売業	金融業、保険業	学術研究、専門・技術サービス業	医療、福祉	その他	公務	計
機械システム工学科・専攻	2	48	2	1		1		3				57
知能デザイン工学科・専攻	2	35	1	12				2				52
電子・情報工学科・情報システム工学専攻	1	13		33	1	1		2		2	1	54
環境・社会基盤工学科・環境工学専攻	10	2	2	1				9		2	18	44
生物工学科・専攻		22		2		2		2		1	1	30
合計	15	120	5	49	1	4	0	18	0	5	20	237

【就職先所在地別】

※学科名は平成29年度のものです。

	北海道・東北	関東	甲信越	富山	石川・福井	東海	近畿	中国・四国・九州	国外	計
機械システム工学科・専攻		4	3	25	5	17	3			57
知能デザイン工学科・専攻		5	1	23	6	14	3			52
電子・情報工学科・情報システム工学専攻		16	4	16	5	11	2			54
環境・社会基盤工学科・環境工学専攻		3	2	18	5	12	4			44
生物工学科・専攻		1		17	5	5	2			30
合計	0	29	10	99	26	59	14	0	0	237

●出身地と就職先所在地（平成29年度）

出身地 \ 就職先	北海道・東北	関東	甲信越	富山	石川・福井	東海	近畿	中国・四国・九州	国外	計
北海道・東北										0
関東	1		4	6	4	12	1		1	29
甲信越		1	6		1	1		1		10
富山			1	67	8	16	2		5	99
石川・福井				3	21	2				26
東海			2	4	1	51		1		59
近畿				1	3	5	5			14
中国・四国・九州										0
国外										0
合計	1	1	13	81	38	87	8	2	6	237

産官学連携・地域貢献活動

1 富山県立大学研究協力会の設立と地域連携センターの開所

平成 16 年 4 月、県内産業界の呼びかけにより、本学と産業界の連携を深めることを目的に、富山県立大学研究協力会が設立（H30.7 月現在 217 会員）。

この動きに呼応し、地域貢献の総合窓口として、地域連携センターを開所。産学連携と生涯学習に関する各種事業を積極的に展開。

2 地域連携センターの活動状況（平成 29 年度）

① センター教員 7 名（兼務）、コーディネーター 3 名を配置し、企業からの技術相談、企業ニーズと大学シーズのコーディネートなどを実施。

- ・センター来所実績 410 企業等
- ・技術相談 221 件

② 地域連携公開セミナー（8 回）の開催

③ 公開講座（1 回）、県民開放事業（オープン・エバ・シティ）、ダ・ヴィンチ祭等の開催

④ 射水市商工協議会との交流会の開催

⑤ 各種イベントなどへの大学からの出展等（5 回）

⑥ 若手エンジニアステップアップセミナーの開催（4 コース）

⑦ 「産学官ものづくりサテライト・ラボ」の開設（H23. 11）

富山県ものづくり研究開発センター（高岡市）の最先端設備を活用し、企業との共同研究など産学官連携をさらに進めるため、作業・打合せスペースを備えた「産学官ものづくりサテライト・ラボ」を同センター開発支援棟内に設置。

3 県立大学研究協力会の活動状況（平成 29 年度）

① リエゾンサポーターの委嘱

大学と研究協力会との橋渡し役として、会員企業の技術担当者等をリエゾンサポーターに委嘱（164 名）。

② テーマ別研究会の開催

企業ニーズに即した産学官の共同研究開発プロジェクトをめざし、技術談義の場として 5 つの研究会を立ち上げ、講演会などを開催（計 5 回）。

③ 講演会、県大教員の奨励研究（環境調和型研究、地域志向研究）への助成など

4 その他

① 論文準修士コースの開設

地域産業の活性化のため、平成 18 年 4 月、大学院（工学研究科）に、社会人のための「高度専門職業能力養成コース」を開設し、企業経営に必要な MOT（技術経営）等の専門知識の修得により、知的イノベーション能力を向上。

（これまでの入学者数：平成 18 年度 6 人、平成 19 年度 6 人、平成 20 年度 4 人、平成 23 年度 1 人、平成 25 年度 1 人、平成 26 年度 1 人、平成 28 年度 1 人、平成 29 年度 0 人、平成 30 年度 1 人）

② 自治体との連携協定の締結

平成 18 年 4 月 13 日、射水市と本学が連携協定を締結し、産業・教育・文化・まちづくりなど、幅広い分野で連携・協力を推進。

射水市と本学との連携協力を機動的に推進するため、連携推進会議の下部組織として「地域協働部会」を設置（平成 25 年 11 月）

また、平成 28 年 10 月 24 日には高岡市、平成 29 年 4 月 18 日には南砺市と連携協定を締結。

国際交流

●学術交流協定を締結している海外大学、研究機関

(平成30年3月31日現在)

国・地域	締結日	提携機関	提携テーマ
中国	H26(2014). 12.14	中国浙江科技学院	中国の動植物、微生物を利用した医薬品や食品の開発に関する共同研究
	H27(2015). 6.17	中国遵義医科大学	酵素触媒の開発及びそれらを用いる有機合成に関する研究
	H27(2015). 7.16	中国科学院上海硅酸塩研究所 (注1)	新型機能材料に関する共同研究
	H28(2016). 1.11	中国瀋陽化工大学(注2)	研究者、学生の交流、共同研究
タイ	H17(2005). 8.1	プリンス・オブ・ソンクラ大学	有用微生物資源及び植物資源の開発に関する共同研究
スリランカ	H26(2014). 2.10	ルフナ大学	スリランカにおける飲料水の水質調査・改善の共同研究
	H29(2017). 5.4	スリランカ民主社会主義共和国 上下水道局(注3) ペラデニア大学科学技術系大学 院(注3)	スリランカにおける飲料水の水質調査・改善の共同研究
インドネシア	H29(2017). 11.14	タデウラコ大学(注4)	インドネシアにおける環境保全に関する共同研究
ベトナム	H25(2013). 1.9	ホーチミン市工科大学	環境に関する研究の促進
アメリカ合衆国	H10(1998). 10.9	アラスカ大学	ロケット実験による宇宙空間科学及び技術開発の推進
ドイツ	H26(2014). 8.11	ビーレフェルド大学	酵素触媒の開発及びそれらを用いる有機合成に関する研究
チュニジア	H27(2015). 12.17	チュニジア共和国チュニジア農業学院水科学技術研究所(INAT)	土木工学と環境科学技術の分野における学術交流
スイス連邦	H30(2018). 3.20	バーゼル大学	研究者、学生の交流、共同研究

注1：2006年締結協定の更新

注2：2009年締結協定の更新

注3：2011年締結協定の更新

注4：2011年締結協定の更新

● 学生交流協定を締結している海外大学、研究機関

(平成30年3月31日現在)

国・地域	締結日	提携機関	提携テーマ
中国	H26(2014). 12.14	中国浙江科技学院	特別研究学生交流
	H27(2015). 6.17	中国遵義医科大学	特別研究学生交流
	H27(2015). 7.16	中国科学院上海硅酸塩研究所	研究生(工学部・大学院工学研究科)交流
	H29(2017). 8.30	中国瀋陽化工大学(注)	単位互換に基づく学生交流
タイ	H17(2005). 8.1	プリンス・オブ・ソンクラ大学	特別研究学生交流
ドイツ	H26(2014). 8.11	ビーレフェルト大学	特別研究学生交流
スイス連邦	H30(2018). 3.20	バーゼル大学	学生交流

注：2009年締結済協定(2016.1.11更新)の改定

● 外国人留学生数

(平成30年5月1日現在)

	学部 学生	大学院学生		研究生	特別聴講 学生	特別研究 学生	計
		修士	博士				
中国	1 (0)	10 (5)	5 (3)	4 (2)	5 (2)	3 (2)	28 (14)
スリランカ			1 (0)				1 (0)
インドネシア	1 (0)	1 (1)	1 (0)				3 (1)
ネパール			1 (0)				1 (0)
フランス				1 (0)			1 (0)
ミャンマー			1 (0)				1 (0)
バングラデシュ			1 (0)				1 (0)
ドイツ						1 (1)	1 (1)
合計	2 (0)	11 (6)	10 (3)	5 (2)	5 (2)	4 (3)	37 (16)

※ () 内は女性で内数。

財務状況

●貸借対照表の概要（平成30年3月31日現在）

（単位：百万円）

資産の部			負債の部		
I 固定資産			I 固定負債	1,461	(16.2%)
1 有形固定資産	7,803	(86.4%)	資産見返負債	1,303	(14.4%)
土地	3,257	(36.1%)	長期寄附金債務	66	(0.7%)
建物	3,843	(42.5%)	長期リース債務	92	(1.0%)
減価償却累計額	▲723	(▲8.0%)	II 流動負債	919	(10.2%)
構築物	84	(0.9%)	運営費交付金債務	165	(1.8%)
減価償却累計額	▲12	(▲0.1%)	預り補助金等	1	(0.0%)
工具器具備品	1,335	(14.8%)	寄附金債務	101	(1.1%)
減価償却累計額	▲707	(▲7.8%)	前受受託研究費等	25	(0.3%)
建設仮勘定	6	(0.1%)	短期リース債務	127	(1.4%)
図書	631	(7.0%)	未払金	470	(5.2%)
美術品・收藏品	72	(0.8%)	未払消費税等	4	(0.0%)
車両運搬具	31	(0.3%)	預り金	26	(0.3%)
減価償却累計額	▲14	(▲0.2%)	負債の部 合計	2,380	(26.3%)
2 無形固定資産	41	(0.5%)	純資産の部		
特許権	8	(0.1%)	I 資本金	6,614	(73.2%)
ソフトウェア	8	(0.1%)	II 資本剰余金	▲306	(▲3.4%)
特許権仮勘定	25	(0.3%)	資本剰余金	284	(3.1%)
3 投資その他の資産	167	(1.8%)	損益外減価償却累計額	▲590	(▲6.5%)
投資有価証券	97	(1.1%)	III 利益剰余金	314	(3.5%)
長期性預金	70	(0.8%)	目的積立金	117	(1.3%)
II 流動資産	1,022	(11.3%)	積立金	80	(0.9%)
現金及び預金	984	(10.9%)	当期末処分利益	117	(1.3%)
未収入金	38	(0.4%)	IV その他有価証券評価差額金	31	(0.3%)
資産の部 合計	9,033	(100.0%)	純資産の部 合計	6,653	(73.7%)
			負債純資産合計	9,033	(100.0%)

●損益計算書の概要（平成29年度）

（単位：百万円）

経常費用		
業務費		
教育経費	380	(10.6%)
研究経費	785	(21.8%)
教育研究支援経費	196	(5.4%)
<u>教育研究経費小計</u>	<u>1,361</u>	<u>(37.8%)</u>
受託研究費	221	(6.1%)
役員人件費	11	(0.3%)
教員人件費	1,403	(39.0%)
職員人件費	431	(12.0%)
<u>人件費小計</u>	<u>1,845</u>	<u>(51.3%)</u>
一般管理費	170	(4.7%)
経常費用合計	<u>3,597</u>	(100.0%)
経常収益		
運営費交付金収益	1,909	(51.4%)
授業料収益	700	(18.8%)
入学金収益	105	(2.8%)
検定料収益	32	(0.9%)
受託研究等収益	160	(4.3%)
寄附金収益	102	(2.7%)
補助金等収益	345	(9.3%)
資産見返負債戻入	221	(6.0%)
雑益	140	(3.8%)
経常収益合計	<u>3,714</u>	(100.0%)
経常利益	117	
臨時損失	4	
臨時利益	4	
当期純利益	117	
当期総利益	117	

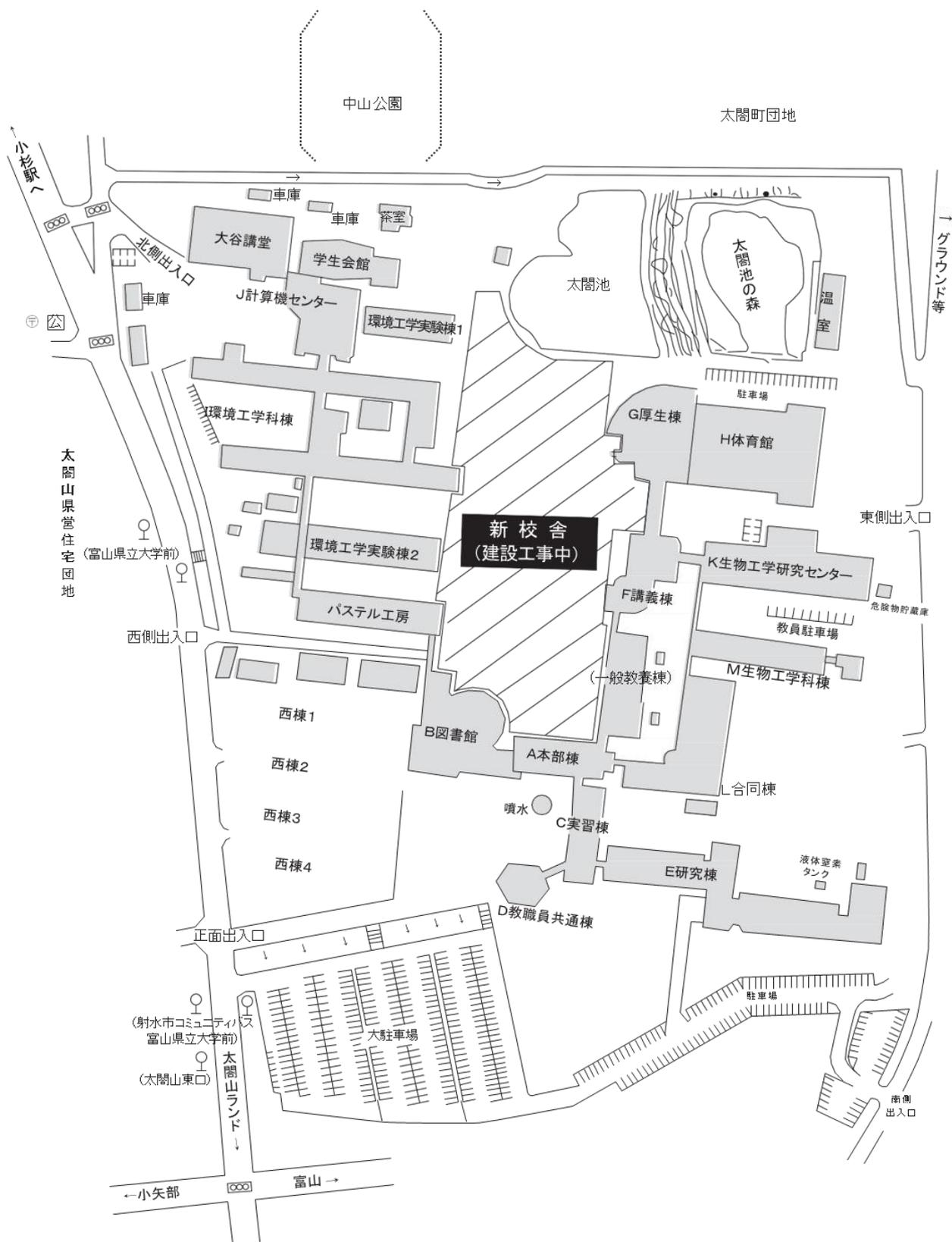
●外部資金の受入実績

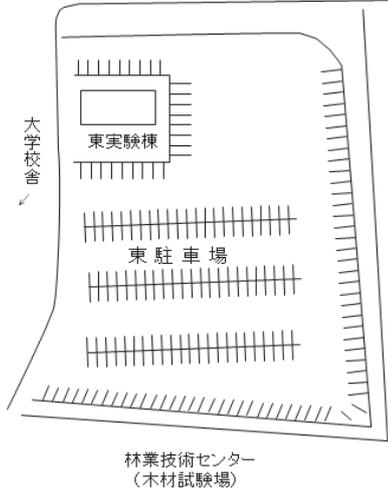
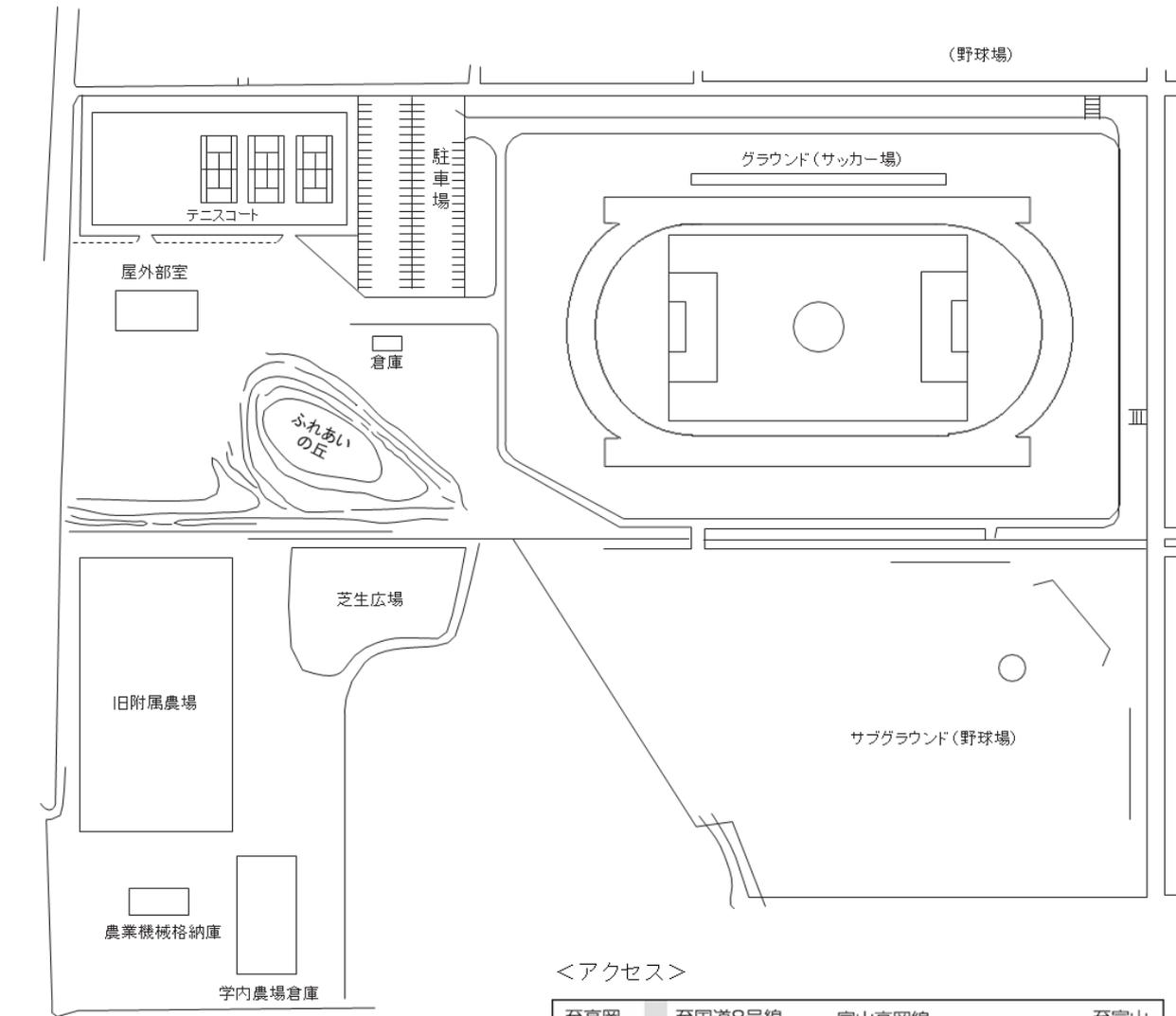
(件、百万円)

年度	受託研究費		共同研究費		奨励寄附金		科学研究費		学術相談		合計	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額
平成29年度	28	128	56	53	114	104	77	156	7	1	282	442
平成28年度	26	281	60	63	104	85	63	111	4	1	257	541
平成27年度	16	290	71	84	79	53	54	102			220	529
平成26年度	21	292	51	58	67	54	49	72			188	476
平成25年度	27	391	53	60	64	43	47	88			191	582
平成24年度	18	543	54	56	63	41	43	80			178	720
平成23年度	24	177	52	63	64	53	36	77			176	370
平成18年度	26	100	41	40	98	65	30	63			195	268
平成13年度	6	31	5	6	51	35	18	25			80	97
平成8年度	5	40	3	3	53	49	29	40			90	132
平成3年度	1	1	1	5	30	23	7	8			39	37

○H23年度以降の受託研究費には、ERATO「浅野酵素活性分子プロジェクト」に関する研究費が含まれています。

学内マップ (施設全体図)





<アクセス>



最近の特記事項

1 大型競争的資金の採択

○本学鎌倉講師（生物工学科）が（独）科学技術振興機構（JST）の戦略的創造研究推進事業（さきがけ）に採択（平成25年度）

さきがけは、研究領域の責任者である研究総括が、複数の個人研究者を総括し、研究領域を「バーチャル・ネットワーク型研究所」として運営するもので、今回、「生体における動的恒常性維持・変容機構の解明と制御」の研究領域において、鎌倉講師の研究課題「女王蜂における寿命制御機構の解明」が採択された。

○本学浅野教授（生物工学科）が（独）科学技術振興機構（JST）の戦略的創造研究推進事業（ERATO）に採択（平成23年度）

個人型研究資金では国内最大級の事業で、約5年間で最大12億円程度の研究費が投じられる。

これまでの採択者には、ノーベル化学賞の野依良治氏や、青色発光ダイオード開発の中村修二氏など世界で活躍する研究者が名を連ねる。

2 各種受賞

○本学教員が紫綬褒章（平成23年度春）を受章

浅野教授（生物工学科）が、応用微生物学分野で、微生物や植物由来の新しい酵素を見出し、改変する等、酵素の新しい用途を発見するなどの功績により、平成23年4月29日付けで紫綬褒章を受章。

○本学教員が第33回（平成28年度）とやま賞を受賞

野村講師（生物工学科）が平成28年5月に「有用植物二次代謝産物の生合成機構の生化学的解明とバイオプロセスによる物質生産への応用」で、第33回とやま賞（学術研究部門）を受賞。

○本学教員が平成29年度科学技術分野の文部科学大臣表彰若手科学者賞を受賞

古澤講師（教養教育）が平成29年4月に「エピゲノム修飾による腸管制御性T細胞誘導制御の研究」で、平成29年度科学技術分野の文部科学大臣表彰若手科学者賞を受賞。

○本学教員が第34回（平成29年度）とやま賞を受賞

竹井教授（医薬品工学科）が平成29年5月に「植物の活用によるナノ・マイクロ微細加工用機能性高分子材料の創出」で、第34回とやま賞（科学技術部門）を受賞。

○本学教員が第35回（平成30年度）とやま賞を受賞

山村准教授（教養教育）が平成30年6月に「元素の特性を活用した高次分子複合体の設計・開発」で、第35回とやま賞（学術研究部門）を受賞。

○エコツアーI（外来植物除去作業）が「生物多様性アクション大賞 審査委員賞」を受賞（平成25年11月）

環境教育の一環として実施している野外実習「エコツアーI」において行った1年次生全員による弥陀ヶ原地域での「外来植物除去活動」の取組みが評価され、「生物多様性アクション大賞（国連生物多様性の10年日本委員会ほか主催）」審査委員賞を受賞

3 国際交流

○瀋陽化工大学との国際学術協定及び単位互換に基づく学生交流に関する協定

平成23年1月に両大学で学術交流協定及び単位互換に基づく学生交流に関する協定を締結。23年4月から本学として初めての取組みとなる学生の交換留学を開始。

○バーゼル大学との学術交流に関する協定

平成30年3月に両大学で学術交流に関する協定を締結。バイオ医薬品や製薬技術分野を主とした国際共同研究や教職員の派遣、学生の交換留学等で学術交流を促進。

4 本学教員の研究成果が英科学誌「ネイチャー」に掲載

鎌倉講師（生物工学科）が、ローヤルゼリーに含まれ、ミツバチの幼虫を女王蜂に成長させるタンパク質「ロイヤラクチン」を世界で初めて特定し、その論文が、英科学誌「ネイチャー」の平成23年4月24日付電子版、5月26日付冊子版に掲載。

5 各種セミナー・交流会等

① 地域連携センター・研究力会設立10周年記念行事の開催

平成26年4月に地域連携センター及び研究協力が会が設立10周年の節目を迎えたことから、県立大学と研究協力の会の交流が更に深まり、大学と企業が引き続き強固な繋がりを持って発展していくというメッセージを発信するため、平成26年5月にオークスカナルパークホテルで開催。

② 次世代環境産業シンポジウムの開催

製造業者、廃棄物処理業者、大学等の関係者が一堂に会し、各々の立場で将来を見据えた資源循環について考え、地域の特長や資源を活用した資源循環型社会づくりが進むことを目的に平成27年11月にボルファートとやまで開催。

③ とやま産学官金交流会2016での発表・出展

県内の産学官金連携の推進により新産業の創出・育成を目指す同交流会が平成28年11月に富山国際会議で開催され、本学からポスターセッション出展。

④ 県立大学短期大学部閉学・県立大学起源50周年記念式典・記念講演会の開催

平成24年3月末に短期大学部が閉学となるとともに、県立大学が県立大谷技術短期大学の開学から数えて50周年の節目を迎えたことから、県立大学が、これからも地域に貢献し全国に誇れる大学として、更に発展、飛躍していくというメッセージを発信するため、平成24年8月にアイザック小杉文化ホールラポールで開催。

⑤ サマースクールの開講

平成30年6月に発足した県内の産学官が連携して医薬品産業の振興や専門人材の育成と確保に取り組む「くすりのシリコンバレーTOYAMA」創造コンソーシアムの事業の一環として、東京圏の学生を受講生とする富山県立大学サマースクール<バイオ医薬品コース>を同年8月に開講。

6 学術協定の締結

① 独立行政法人港湾空港技術研究所と連携・協力の推進に関する協定書を締結

平成27年3月に、両機関の研究開発能力と研究資産等を活かし、先進的・実用的な研究開発及び次世代を担う人材の交流・育成を目的とし、北陸3県の大学では初めてとなる連携・協力の推進に関する協定を締結した。

② 独立行政法人土木研究所との連携・協力の推進に関する協定書を締結

平成27年3月に、両機関の研究開発能力と研究資産等を活かし、先進的・実用的な研究開発及び次世代を担う人材の交流・育成を目的とし、北陸3県の大学では初めてとなる連携・協力の推進に関する協定を締結した。

学生増に伴う既存校舎の改修（※平成28年度から順次実施）

○女性専用パウダールーム・更衣室の新設



○生協食堂・購買の拡充と、談話・学習室の整備



○駐車・駐輪場を増設し、学生の利便性を向上



富山県立大学の拡充計画 「地域に貢献する、より魅力ある大学へ！」

富山県立大学では、県内産業等に求められる人材育成と若者の定着に貢献し、一層魅力ある大学となるよう、学部学科の拡充・新設を進めています。

このため、教員を大幅に増員して教育研究の充実を図るとともに、新校舎を建設するなどキャンパス環境を整備しています。

H27年4月
(公立大学法人化時)

H29年4月

H30年4月
【現在】

H31年4月

2020年4月

工学部

社会、産業界のニーズを反映

機械システム
工学科(定員50)

定員60名(H28.4～)
(複合材料分野強化)

H30名称変更

知能デザイン
工学科(定員50)

定員60名(H28.4～)
(ロボット関連分野強化)

知能ロボット工学科
定員60名

H29名称変更

情報システム
工学科(定員50)

電子・情報工学科
(電気・電子系強化)
定員80名

H29名称変更

環境工学科
(定員40)

環境・社会基盤工学科
(社会基盤系等強化)
定員55名

生物工学科
(定員40)

生物工学科
定員40名

新
医薬品工学科
定員35名
バイオ医薬
製剤技術等

入学定員 230名

入学定員 330名

法人化後 2年で 100名増

大学施設の整備充実

■ 新校舎(9階建)の建設で
魅力あるキャンパスに
講義室・研究室増設、新学生会館の整備

- ・アクティブラーニングスペース
- ・オープンラボ
- ・学生や県民の憩いと交流の場
などを整備



2020年4月供用開始(予定)

平成31年4月「看護学部」開設!(予定)

■看護学科 定員:120名

入学定員 450名

法人化時の概ね2倍に!



富山県立大学

看護学部の概要 (設置認可申請中)

高度化する医療や超高齢社会に伴う看護の役割拡大に対応するため、看護の基礎教育を重視し、学生の看護力を最大限に伸ばします。

修業年数	4年	開設時期	平成31年4月
入学定員	120名	取得学位	学士(看護学)
取得可能な資格	看護師国家試験受験資格 <small>※指定学校申請中</small>		
開設場所	富山県富山市西長江二丁目2番78号		

看護学部の特色

- ①「自ら学ぶ力」を身につける**
 グループ学修やアクティブラーニングを多く取り入れるほか、豊富な自主学習教材を備え、学生が主体性を持って自ら学ぶ姿勢を支援します。
- ②多様な実習の場で実践力をつける**
 富山県立中央病院をはじめ、県内の公的病院や訪問看護ステーション、様々な保健福祉施設で、地域に密着した実習を行います。
- ③工学的な視点を「看護」の世界へ**
 工学的視点を取り入れた人に優しい看護学について、工学部の学生とともに学びます。刺激し合い、視野を広げて新時代の看護師をめざします。
- ④キャリア形成科目で自分らしい生き方を探す**
 1年次から、自分らしい看護師像や働き方を考えます。県内公的病院などへの就職もサポートします。
- ⑤さらなるステップアップの道へ**
 今後、保健師・助産師を養成する「大学専攻科」、看護学を研究する「大学院」を設置予定です。



<アクセス>



■平成31年度募集人員・入試科目(予定)

選抜区分	募集定員	大学入試センター試験	個別学力調査等											
推薦入試 (県内生対象)	48名 <small>※1校から推薦できる人数は5名以内です。</small>	免除	英語(コミュニケーション英語Ⅰ・Ⅱ) 数学(数学Ⅰ・数学A) 小論文 面接											
一般入試 (前期日程)	62名	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 15%;">国語</td> <td>「国語」(近代以降の文章のみ)</td> <td rowspan="4" style="width: 15%; vertical-align: middle;">小論文 面接</td> </tr> <tr> <td>地理歴史 公民</td> <td>「世界史A」「世界史B」「日本史A」「日本史B」「地理A」「地理B」「現代社会」「倫理」「政治・経済」「倫理・政治・経済」から1科目</td> </tr> <tr> <td>数学</td> <td>「数学Ⅰ」「数学Ⅰ・数学A」「数学Ⅱ」「数学Ⅱ・数学B」から1科目選択</td> </tr> <tr> <td>理科</td> <td>「物理基礎」「化学基礎」「生物基礎」「地学基礎」から2科目または「物理」「化学」「生物」「地学」から1科目</td> </tr> <tr> <td>外国語</td> <td>「英語」(リスニングを含む)</td> <td></td> </tr> </table>	国語	「国語」(近代以降の文章のみ)	小論文 面接	地理歴史 公民	「世界史A」「世界史B」「日本史A」「日本史B」「地理A」「地理B」「現代社会」「倫理」「政治・経済」「倫理・政治・経済」から1科目	数学	「数学Ⅰ」「数学Ⅰ・数学A」「数学Ⅱ」「数学Ⅱ・数学B」から1科目選択	理科	「物理基礎」「化学基礎」「生物基礎」「地学基礎」から2科目または「物理」「化学」「生物」「地学」から1科目	外国語	「英語」(リスニングを含む)	
国語	「国語」(近代以降の文章のみ)	小論文 面接												
地理歴史 公民	「世界史A」「世界史B」「日本史A」「日本史B」「地理A」「地理B」「現代社会」「倫理」「政治・経済」「倫理・政治・経済」から1科目													
数学	「数学Ⅰ」「数学Ⅰ・数学A」「数学Ⅱ」「数学Ⅱ・数学B」から1科目選択													
理科	「物理基礎」「化学基礎」「生物基礎」「地学基礎」から2科目または「物理」「化学」「生物」「地学」から1科目													
外国語	「英語」(リスニングを含む)													
一般入試 (後期日程)	10名	前期日程に同じ	面接											

※認可申請の審査継続による保留等で、大学入試センター試験を利用した入試を実施できなかった場合の試験方法については、改めて周知。



公立大学法人富山県立大学

事務局 経営企画課
〒939-0398 富山県射水市黒河5180
TEL (0766) 56-7500 [代表]

平成30年 8月発行